

研修報告 C班2グループ チームTK

【はじめに】

グループ討議を行うにあたり、2つのテーマを与えられ、討議を行った。

【テーマ1】 「責任ある情報を公表するための職員の役割」

教育情報の公表が義務付けられた今、各大学の現状や情報を公表する目的、公表する情報の作り方等についてグループ討議を行った。

1. 情報を公表する意義、目的

少子化に伴い「大学全入」時代になりつつある今、ホームページで大学のアピールをするというのは広告にしか過ぎずない。そこで、今求められている「情報を公表する意義、目的」について討議を行い、以下の意見に集約された。

- ・ 情報化社会の中で、オフィシャルの情報を公表する
- ・ 情報を公表することで、その情報に対して責任を持たせる
- ・ 公表する情報を見直すことで、自分の大学を見直し、大学の質を確保する

2. 情報公表の現状

各大学の現状は、シラバスは教員主導で作成されており、学生にとって理解しにくい内容である。さらに、利用者の要求に合う情報ではない場合が多いことが分かった。

3. 教育情報の作られ方

公表されている情報で、教育情報というのは主に特定の教職員や委員会の中で作成されていることが多いのが現状であるという意見が多かった。

4. 公表する情報の作り方

公表する情報を作るには、学部、学科、各部署間の縦割りをなくし、情報を共有することや、発信者を明確にする、公表する情報の確認を複数人で行い、情報の正確性を高めることが必要ではないかという討議をし、今まで以上に教員と協働する必要があるという結論に達した。

【テーマ2】 「学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割」

1. 教育の質的転換の必要性

教育の質的転換の必要性にはいろいろな要因がある。

- ・ グローバル化により、社会が求める人材が変化している
- ・ 少子化により受験者数が減少している
- ・ 優秀な人材の育成が必要とされている

2. 教育の質的転換のための準備

大学の運営に関する委員会の整備や、学部・学科のビジョンを明確化し学内の意識を合わせることに、教員一人当たりのコマ数の見直しなどを行い、きめ細やかな修学支援体制などが必要ではないか、という意見があった。

3. 教育の質的転換における ICT の活用

e ラーニングを利用して事前事後の学習時間の確保や、学生ポータルを利用して授業に関するアンケートを収集し、授業改善に役立てることもできる。

4. 学士課程教育の質的転換を図るために行うべきこと

予想困難な時代の中で、大学の教育も時代に合わせた変化が求められている。教職課程の体系化、授業計画の充実、教学マネジメントの改善などを行うことが必要ではないか討議した。これらを実現するには、やはり今まで以上に教員と協働する必要があるのではという結論に達した。

【結論】

テーマ1とテーマ2を討議した結果、職員と教員の一体化、「教職協働」が重要であるという共通の結論に達した。各部署間や教職員間での情報共有が足りず、公表する情報に偏りがあり、ICTが有効活用されないこともある中、職員として「教職協働」を実現するには、FD・SDの研修を共同で行うなど、教員と職員がもっとお互いの事を知る機会や、ICTを活用し、教職員が参照できるデータベースなどを作成・提供することが重要であるという結論に達した。また、私たちが考える「教職協働」とは、単に協力をするのではなく、共通認識された同じ目標に向かって教職員がそれぞれの役割を担い、果たすことが重要だと考える。

以上